

「経年比較」について

授業改善推進プランでは、同一学年の「経年比較」を大切にしています。

中学校に入学した生徒たちの学力が、学年をあげるにしたがってどう推移したかを見ることで、改善の方策が妥当であるかどうかを判断するためです。

また、授業改善推進プランでは、「平均点」を経年比較するのではなく、「達成率（＝目標値を達成した生徒の割合）」を経年比較しています。

東京都教育委員会の「学力・学習状況調査結果分析」では、平均点ではなく、達成率の上昇が重要であるとされています。

熱心に学習に取り組む中学生が多くいる一方、学習に意欲を持ってない中学生も少なくないという、「二極分化」の傾向が課題となっているからです。

馬込中学校でも、学力の「二極分化」を起こさないよう、1人でも多くの生徒が意欲的に学習に取り組めるよう、授業改善に努めます。

大田区では、経年比較のみ具体的な数値を記載します。（「昨年度から5%上昇している」など。）達成率や平均点自体は、文章表記となります。

○達成率：「非常に高い」「高い」「標準」「低い」「非常に低い」の5段階

○平均点（観点別）：「大きく上回っている」「上回っている」「標準」「下回っている」

「大きく下回っている」の5段階



国語科

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- 意見文の発表をとおして、課題解決のための思考力、情報を精査するための判断力、考えを文章化しスピーチとして伝える表現力の育成に取り組むことができた。
- 自分の考えと他者の考えを踏まえて練り直すことで、関心を高めたり視点を広げて考えたりすることができた。

(2) 課題

- 漢字、文法、聞き取り問題の小テストを実施し、基礎知識の定着を図る。
- 発表や話し合い活動を充実させ、円滑なコミュニケーションがとれるようにする。
- 自らの生活と関連させて学習内容を捉え、考えや想像を深める力を身に付ける。
- 各題材に応じた作文を継続し、的確な読み取りや適切な表現を定着させる。
- 活動と評価を適切に結びつけ、学習意欲の向上、学習習慣の定着につなげる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	平成2年度結果
第1学年	高い。		
第2学年	高いが、昨年度から5.6%減少している。	非常に高い。	
第3学年	高いが、昨年度から21.6%減少している。	非常に高い。	非常に高い。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
上回っている。	上回っている。	上回っている。

② 第2学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
上回っている。	標準。	大きく上回っている。

③ 第3学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
標準。	標準。	標準。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
意味や字形を意識して漢字を書き、文法の反復学習を行う。	各分野の文章における適切な読み方を知る。聞き取り問題を継続して行い「聞く」力を育てる。要約文や小作文に取り組み、正確に文章を書く力を養う。	考える手段・方法を明らかにして授業を展開し、自身の生活との関連を意識して取り組めるように、授業の展開を工夫する。

（2）第2学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
意味や字形を意識して漢字を書くことができるように、小テストを継続して行う。口語文法の定着を目指し、各題材の学習のなかで復習する。	文章だけでなく図表や参考文献と併せて題材を読み解き、情報と情報を整理して要点をつかむ力を身に付ける。作文や聞き取り問題、話し合い活動をとおして思考力を養う。	自己評価をとおして自らの学びを振り返ることができるように、ワークシートや授業の展開を工夫する。

（3）第3学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
各単元における復習と小テストを継続し、漢字や品詞の活用等基礎知識の定着を図る。歴史的仮名遣い等古文の基礎知識は音読活動を行うことで身に付ける。	聞き取り問題を継続して行い、スピーチや話し合い活動をとおして「話す・聞く」力を強化する。	積極的に参加できるように、自身の生活と関連させて考えて表現させる場面を増やし、生徒一人一人に応じた多角的な指導を実践する。

数学科

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・3年生では、領域を横断した複合問題に多く取り組ませることにより、既習事項を活用する力を向上させることができた。
- ・2年生では、演習問題に多く取り組ませることで、基礎的・基本的な計算を定着させることができた。

(2) 課題

- ・第1学年は「小数・分数の四則演算」「平面図形」「平均・場合の数」に課題がある。
- ・第2学年は「データの散らばりと代表値」に課題がある。
- ・第3学年は「連立方程式」に課題がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	平成2年度結果
第1学年	高い。		
第2学年	非常に高い。昨年度から4.8%上昇した。	高い。	
第3学年	高い。昨年度から7.9%上昇した。	高い。昨年度から10.2%下落した。	高い。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
標準	標準	標準

② 第2学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。

③ 第3学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
教科書に載っている基礎・基本的な問題だけでなく、問題集を活用し、演習問題に多く取り組ませることにより、知識の定着を図る。特に、計算問題については、途中式を常に書くよう指導し、どこで間違えてしまったのか見返すよう指導している。	問題提示の際に、ICTを活用して問題の理解を深めさせ、自力解決の時間を多くとることにより、生徒が自分自身で考える時間を増やし、思考力を高めさせる。また、生徒同士での比較検討の時間を取り入れることで、数学的な表現を使って、他者に説明する場面をつくり、表現力を高める。	今年度より、「授業振り返りシート」を活用し、毎授業ごとに生徒自身がその1時間の授業の中でどのようなことを学んだのかを振り返る時間を設定している。授業の振り返りを行うことにより、そこで生まれた疑問点や復習すべきだと思った内容について主体的に学習する生徒が増えてきている。

（2）第2学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
途中式、図形、表、グラフなどを具体的にノートに書かせるという指導を通して、問題のポイントや図形の特徴の把握などの力を伸ばせるよう指導をさらに工夫していく。基礎・基本的な知識の定着を図るための問題を数多く用意し、演習を通じて自信をつけさせていく。	より多くの課題に取り組ませ、問題解決の楽しさを味わえるようにする。さらに、実体験に基づく規則性や法則性について考察するよう指導を工夫する。また、自分の考えについて説明し発表する問題を継続する。	一年生の時から継続している週2回の家庭学習用の「計算トレーニング」の配布から採点、回収の一連の流れを係中心に実施できるように指導を継続する。また「計算トレーニング」や基礎問題などをクロームブックにアップしていつでも復習しやすいようにしており、アクセスする生徒が増えている。

（3）第3学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
授業中にできるだけ多くの演習問題に取り組ませるように心掛けている。また、問題集や定期考査や計算コンテストを通して、基礎・基本的な問題に取り組ませることで、知識の定着を図る。	領域を横断した複合問題に取り組ませることにより、自分自身の力で考える時間を設け、思考力を高めさせる。また、授業中に発言させる際に、数学的な表現を使って話すように指導を継続する。	各章の最初の導入の際に、身の周りの問題を取り入れるようにし、学習内容と実生活との結びつきについて触れ、生徒が興味関心を持って、楽しく授業が受けられるよう心掛けている。また、身の周りの問題について主体的に考え、学習への理解を深めさせる。

英語科

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・主体的に取り組むことができる授業を工夫し、学習への関心・意欲を向上させることができた。
- ・授業の中で対話的活動を行い、学習課題に対して考えや意見を交換することで、思考力・判断力・表現力を養うことができた。
- ・単語テストや単元テストを実施し、基礎的な知識を身につけることができた。

(2) 課題

- ・定着した知識を活用し、会話や英作文など表現力を養う。
- ・発表やALTとのインタビューを増やし、思考力・判断力・表現力を養う。
- ・単語や英文の音読練習を増やし、文字と音を定着させていく。
- ・読解力を養うために、大筋から細かい内容へと考えていけるようなワークシートを取り入れていく。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	平成2年度結果
第1学年	非常に高い。		
第2学年	非常に高い。昨年度より5.2%上昇した。	非常に高い。	
第3学年	非常に高い。昨年度より5.9%下降した。	高い。	

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
大きく上回っている	上回っている	標準

② 第2学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
大きく上回っている	大きく上回っている	大きく上回っている

③ 第3学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
大きく上回っている	大きく上回っている	大きく上回っている

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
単語の定着を図るため、単語プリントを活用し、何度も同じ単語に触れていけるようにする。文法事項は、既習事項と絡めながら学習を進め、練習問題を通して、基礎的な知識の定着を図る。	授業毎に、ペアの1分間の会話を通して、表現力を向上していく。定型文を何度も練習し、そこから自分の話したい内容に少しずつ変えていきながら、自己表現へとつなげていく。	会話を中心にした授業を行い、英語が話せること、英語で表現できることが楽しいと思える活動を工夫していく。

(2) 第2学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
単語の定着を図るために、単語プリントを作成し、何度も同じ単語に触れていく。最後の総仕上げとして、単語テストを行う。文法事項は、既習事項を活用して、新しい学習内容を進めていく。そして、その違いを意識できる練習問題を行う。	授業毎に、ペアの1分間の会話を通して、応答や自己表現の基礎を学べるようにする。長文読解後には、その内容に関連したものを考え、英語で友だちに伝える活動を行い、思考力や表現力を磨いていく。	発音を重点的に行い、音と文字を結びつけ、英語が話せる、読めるという意欲へとつなげる。英語を使って表現できることの楽しさを感じることができるよう、友だち同士で常に考え、表現するような授業を行う。

(3) 第3学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
各単元が終わるごとに単元テストを行い、進出単語や文法事項など教科書の基礎的な知識の定着を図る。文法事項は、既習事項を活用して、新しい学習内容を進めていく。そして、生徒の実態に合わせた練習問題を行い、基礎的な用法の定着を図る。	教科書本文に関する絵や写真について、ペア同士で英語だけで説明ができるようにする。スピーチやプレゼンテーションなどの発表やALTとのインタビューなど、スピーキングに関するテストを月1回程度行い、英語で表現する力を養う。	発音を重点的に行い、音と文字を結びつけ、英語が話せる、読めるという意欲へとつなげる。ペア同士での教え合いの時間を設け、どの生徒も安心して発言・質問できる環境を作り、英語で表現することへの困難感を減らしていく。

社会科

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・小テストに関しては、1・2年生の積み重ねが重要であるので昨年以上に回数を増やし、知識理解の定着できてきている。
- ・歴史において、資料を読み取る力とそれを表現する力を磨くことが必要であったので、授業内で積極的に資料提示を行い、生徒のイメージもたせることができた。
- ・タブレットを活用して家庭学習の充実を図ることができた。

(2) 課題

- ・多面的・多角的に考察し、表現する力を養うために、ICTを活用したグループワークや発表の場を設け、課題解決の力を養っていく。
- ・世界の諸地域や日本のついで産業、貿易について、図やグラフ・写真などの資料を使い読解力を養っていく。
- ・タブレットを活用し、授業の復習的な問題を授業当日に出題し解答させることにより、知識の定着を図る。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	平成2年度結果
第1学年	高い。		
第2学年	標準 昨年度から10.2%下降した	高い。	
第3学年	標準。昨年度より3.9%下降した。	高い。昨年度から4,5%下降した。	標準。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
標準	上回っている	上回っている

② 第2学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
標準	標準	標準

③ 第3学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
標準	上回っている	上回っている

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
<p>歴史・地理両方とも複数の資料を活用し、習得した知識と結びつけられるような問題を授業内で出題する。語句の意味や位置の理解に課題が見られたので、家庭学習を通じて定着を図る。</p> <p>定期考査の問題を活用し、知識の定着を確実にしていく。</p>	<p>自分の意見の立場や根拠を明確に表現する活動を授業で取り入れる。タブレットを活用し、生徒同士の考え方を共有することで、表現力の向上を図る。</p> <p>定期考査の問題を活用し、思考力・判断力・表現力の定着を確実にしていく。</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度に違いが見られるので、ICT教材を活用しながら、生徒全員が興味をもてるように授業を展開する。</p>

（2）第2学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
<p>正しく語句を記入することに課題が見られたので、授業で正確な文字・漢字を書けているか確認することで定着を図る。</p> <p>場所や位置に関する知識が不十分である生徒もいたので、地図帳やタブレットを使用して確実に定着させていく。</p> <p>定期考査の問題を活用し、知識の定着を確実にしていく。</p>	<p>知識を語句として捉えることが多く、文章として表現することに課題が見られたので、グループでの話し合い活動等を取り入れ、他人の考えから、自分の考えを適切に文章化できるようにする。</p> <p>タブレットを活用し、生徒同士の考え方を共有することで、表現力の向上を図る。</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度に違いが見られるので、ICT教材を活用しながら、生徒全員が興味をもてるように授業を展開する。</p>

（3）第3学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
<p>語句の意味や位置の理解に課題が見られたので、歴史・地理両方とも複数の資料を活用し、習得した知識と結びつけられるような問題を授業内で出題する。</p>	<p>資料を読み取る中で、必要な資料を取捨選択できるよう、タブレットを活用していく。</p> <p>タブレットを活用し、生徒同士の考え方を共有することで、表現力の向上を図る。</p>	<p>資料を読み解く部分に課題が見られたので、授業中に課題解決学習を取り入れる回数を増やし、主体的に学習に取り組めるようにする。</p>

理科

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・3年生では、実験、観察を多く取り入れ、思考する場面を増やすことで、既習事項を活用する力を向上させることができた。
- ・2年生では、実験、観察を多く取り入れることで、基礎的・基本的な操作を確実に習得することができた。また、用語テスト等を行うことで、基礎的・基本的な知識を定着させることができた。

(2) 課題

- ・3年生では、既習事項を使って、身のまわりの現象を説明する力や、用語の説明等の表現力に課題がある。また、前年度までの内容が抜けてしまっている部分が見られ、基礎的・基本的な知識の確実な定着を図る必要がある。
- ・2年生では、目に見えない現象をモデルやグラフ等を使って視覚的に捉える、科学的な思考力に課題がある。また、既習事項を日常生活と結びつけて考える力の定着を図る必要がある。
- ・1年生では、基礎的・基本的な知識・技能の定着に課題がある。また、自然の事物・現象を科学的な視点でとらえ、思考・判断・表現する力を身につける必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	平成2年度結果
第1学年	高い。		
第2学年	高い。昨年度から13.9%減少した。	非常に高い。	
第3学年	標準。昨年度から13.7%減少した。	高い。	標準。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
標準	標準	標準

② 第2学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
標準	標準	目標値を上回っている

③ 第3学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
標準	標準	標準

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 問題演習や用語テスト等を繰り返し行い、基礎的・基本的な知識の定着を図る。 実験・観察を多く取り入れ、基本操作の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験、観察の結果を活用し、思考する場面、話し合い活動等の対話的な学びを通して、科学的に探究する力を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験・観察等の体験的な学習を多く取り入れ、ICT機器を有効に活用しながら自然の事物・現象や日常生活を科学的に探求しようとする態度を養う。

(2) 第2学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 問題演習や用語テスト等を繰り返し行い、基礎的・基本的な知識の定着を図る。 前年度までの学習内容を2年生の内容と関連付けながら、既習事項の確実な定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を用いて、原子モデルや前線モデル等の画像や動画を掲示するなど、目に見えない現象を視覚的に捉えさせ、科学的な思考を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習の知識の活用が、現象と結びつくことを理解させ、自然の事物・現象や日常生活を科学的に探求しようとする態度を養う。

(3) 第3学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 問題演習や用語テスト等を繰り返し行い、基礎的・基本的な知識の定着を図る。 前年度までの学習内容を1、2年生の内容と関連付けながら、既習事項の確実な定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然の事物・現象について、既習事項との関わりを科学的に思考し、話し合い活動やプレゼンテーション等の対話的な学びを通して、自分の考えを表現する力を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合い活動やプレゼンテーション等の対話的な学びを通して、科学を学ぶ意義や有用性を実感し、日常生活や科学技術をより深く探求しようとする態度を養う。

音楽科

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・授業に対する関心・意欲・態度が良好である。

(2) 課題

- ・表現の創意工夫に関しては、理解したことを演奏に組み入れることが課題である。
- ・表現の技能に関しては、より豊かな表現力を身につけることが課題である。

2 授業の状況、定期考査の結果等からの学力分析

(1) 第1学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
歌唱表現に必要な姿勢、発声などの基本となる力が身につけていない。器楽で基本運指ができていない生徒がいる。 基礎・基本の定着に欠ける。	楽曲内容を知識として理解しているが、それを演奏で表現することはまだ十分でない。	聴く、書く、読む、歌う、吹くという流れにのれない生徒がいる。ワークシートの記入などの活動を通して多様な音楽の良さや美しさを味わい、幅広く主体的に鑑賞する能力を育てたい。

(2) 第2学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
歌唱表現に必要な姿勢、発声などの基本となる力が身につけてきている。器楽で基本運指ができていない生徒がいる。	創意工夫、音楽表現のために必要な知識・理解が十分ではない。	どの課題も落ち着いてよく取り組んでいる。その曲に対する理解・知識は全体的に高い。ワークシート記入などの活動により成果が表れている。

(3) 第3学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
歌唱表現に必要な姿勢、発声などの基本となる力が身につけていない生徒がいる。器楽で基本運指ができていない生徒がいる。	楽曲内容を知識として理解してきているが、それを演奏で表現することはまだ十分ではない。	基礎・基本の定着に欠ける生徒がいる。集中して授業に取り組む姿勢が身につけていない生徒がいる。 鑑賞曲から何を学び、何を感じ取るのか、注目する点を理解するまでに時間が多少かかる。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
興味深く体験できる基礎発声や基本運指を毎授業で繰り返し練習し、基礎・基本の習得を図る。 授業内容と目標を明確に伝える。	実技表現への苦手意識をもつ生徒たちへの自尊意識を高める指導をする。 歌唱の内容を感じ取り、表現を工夫して歌うように指導する。	歌唱・器楽・鑑賞・提出物に至るまで、ひとつひとつ確認しながら進めていく。 音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。

（2）第2学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
多様な音楽の良さや美しさを味わい、幅広く主体的に鑑賞する能力を育てる。	歌唱の活動を通して、歌詞の内容を感じ取り、表現を工夫して歌う。	興味深く体験できる基礎発声や音楽の基本を毎授業繰り返し、基礎・基本の習得を図る。

（3）第3学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
器楽の活動を通して、器楽の特徴をとらえ、基本的な奏法を身につけて演奏する。 わかりやすい説明、ワークシートや視聴覚機器の活用により関心を高める。	多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、基礎的な表現の技能を身につけ、創意工夫して表現する能力を育てる。	集中して授業に取り組む姿勢が必要である。 鑑賞教材は我が国や郷土の伝統音楽を含む我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、指導に適切なものを扱う。

美術科

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・自分や他者の作品のよさを認める力が向上したことにより、美術を愛好する心情がより強くなった。
- ・根気よく取り組むことで基礎的な技能の修得が向上したため、それらを積極的に活用するようになった。

(2) 課題

- ・自分のイメージを実現できるよう、計画的に創作活動できる力を定着させる。
- ・作品をイメージ通りに完成できるよう、習得できた基礎的な技能を定着させる。

2 授業の状況、定期考査の結果等からの学力分析

(1) 第1学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な技能を理解しているが、理解力に個人差がみられるようになってきた。	発送や構想を独自に生み出し、楽しめる生徒が多い。	課題を理解し、意欲的に取り組むことができる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な技能に関して理解し創作活動の中で実行できている。	基礎的な技能に関して理解し創作活動の中で実行できている。	課題を理解して取り組めるが、授業規律の定着には引き続き取り組む必要がある。

(3) 第3学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な技能を生かして創作に活用できるようになった。	発想や構想で悩む生徒はいるが、意欲的に向き合えるようになった。	課題を理解し真面目に取り組む姿勢が備わっている。落ち着いて取り組めるようになった。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
丁寧な声かけ。確認などで習得した基礎的な技能を伸ばさせ、知識、技能を深めさせる	自由に発想できる環境つくりを心がけ、個性を認め、表現力を伸ばしていく。	達成感の喜びや表現活動の楽しさを味わわせていけるよう、個々の良さに気づかせていく。

（2）第2学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
修得した基礎的な技能を継続して正しく使えるよう、定期的な確認や声かけをし、最後まで丁寧に取り組ませる。	発想を膨らませる手立てや、アイデアのもとになるような資料の提示をする。	達成感や楽しさを味わえるように、作品へ働きかけたことによる変化や、良さに気づかせる。

（3）第3学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
修得した基礎的な技能を継続して正しく使えるよう、定期的な確認や声かけをする。	発想を膨らませる手立てや、アイデアのもとになるような資料の提示をする。	達成感や楽しさを味わえるように、作品へ働きかけたことによる変化や、良さに気づかせる。

保健体育科

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- 自己の課題を見つけ、その解決に向け必要な練習方法を考える力を身に付けさせることに取り組んできた。コロナの影響で制限がある中ではあったが、個々で目標設定をさせ、課題解決に向けての練習を考えながら、技術向上を目指すことができた。
- 三密に気を付けながらグループワークを増やし、自己や仲間の良さや課題を見つけ、伝える時間を少しずつ設けることができた。

(2) 課題

- 個々の体力を向上させるために、運動量を増やす。
- 生徒の得意・不得意に関わらず、意欲的に取り組めるよう授業展開を工夫する。
- 新型コロナウイルス感染防止に努め、三密に気を付けながらグループワークを増やす。

2 授業の状況、定期考査の結果等からの学力分析

(1) 第1学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
各運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方について、意欲的に理解しようと努めている生徒が多い。その一方で、基本的な体力や技能には差がある。また、授業内でのルールや約束事を守る意識を高め、安全な行い方について学習している。	自己課題を発見し、その解決に向けて自己や仲間の考えをワークシートに記入したり、グループワークで他者に伝えたりする学習をしている。しかし、ワークシートの提出ができない生徒がいる。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任、他者を認め合う態度を養い、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている生徒が多い。

(2) 第2学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
各運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、各領域に関連して高まる体力、健康・安全の留意方法について学習しているが、定期考査の結果を見ると定着は不十分なところもある。また、各運動の特性に応じた基本的な体力や技能に差が見られる。	自己課題を発見することはできても、合理的な解決に向けて課題に応じた運動を工夫することは難しい。自己や仲間の考えたことを他者に伝える学習として、グループワークやワークシートの活用をしている。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任などに対する意欲をもち、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている生徒がいる一方で、運動に対して苦手意識をもつ生徒もいる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
各運動の技の名称や行い方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての方法や、スポーツの意義についての考え方については一定の理解が定期考査の結果から見られる。運動の基本的な技能はある程度身に付いているものの、応用や体力の高め方については課題がある生徒もいる。	生涯にわたって運動を豊かに実践するために自己や仲間の課題を発見し、合理的な課題解決に向け、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた組み合わせ方を学習し、グループワークやワークシートを活用しながら自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる生徒が増えてきた。	仲間と協力しながら、運動の楽しさや喜びを味わおうと意欲的に取り組むことができる。また、苦手意識のある生徒もいる中、公正、責任、共生などを養い、健康・安全に留意しながら、学習に積極的に取り組む生徒も多い。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
各運動の特性や成り立ちや技の名称、行い方については、授業内でポイントを明確にするとともに、ワークシートの活用でより定着させる。技能差については、個々の能力を理解させ、自分に合った練習方法を選択できるよう促す。また、授業内でのルールや約束事を守る意識を高め、安全に留意する。	グループワークを増やしたり、考えを他者に伝えるためのポイントを提示したりすることで、自己や仲間の課題の発見や、その解決の方法を意欲的に検討できるようにし、ワークシートの記入にも反映できるようにする。	生徒が主体的に運動に取り組むことができるよう、練習法やゲームの工夫、グループワークにより、能力差にも配慮しながら安全に留意して学習できるよう努める。

(2) 第2学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
各運動の特性や技の名称、行い方、健康・安全の留意点については、授業内で目標や技のポイントを明示したり、教え合い活動をしたりすることで理解を深めさせるとともに、ワーク等の活用で定着を図る。また、グループワークで仲間と協力したり、能力に応じた目標や練習法を設定するなど、技能を高める機会を確保する。	技や動きのポイントを明確にしたり、グループワークで互いに評価したり教え合ったりすることで自己課題をより発見しやすくする。また、その課題の合理的な解決のために、能力に応じた練習法の提示や話し合い活動も取り入れる。	生徒が主体的に運動や練習に取り組むことができるよう、段階的に目標設定をしたり練習を選択したりできるようにする。他者を認め合い、協力して取り組めるような環境づくりに努める。

(3) 第3学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
自己の体力や技能を理解し、主体的に運動を選択できる力を身に付けさせる。また、応用や体力の高め方についても、ICTやワークシートの活用で考える機会を設定し、実行させる。	グループワークやワークシートの活用を継続しながら、自己や仲間の考えたことを他者に伝えたり、自己の課題発見や解決に向けた運動の取り組み方を検討、実践したりできるようにする。	仲間と協力しながら主体的に活動し、公正、責任、共生などを養うことで普段の生活でも正しい態度をとれるようにする。また、健康・安全に留意しながら、自分たちで積極的に活動内容を検討する力を身に付けさせる。

技術・家庭科

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・技術・家庭科への興味関心をもちながら、意欲的に活動することができている。
- ・生活に必要な基礎的・基本的な知識や技能を身に付け、課題に取り組むことができている。
- ・適切な道具の使い方や安全への配慮等ができるようになってきた。

(2) 課題

- ・学んだことと生活とを関連させながら、自分の考えを表現することの定着を図る。
- ・SDGsやエシカルなど、社会の中での課題と学習したことを関連できるように、自分の考えを表現したり、友達の考えから新たな考えを生み出したりする力を育てていく。

2 授業の状況、定期考査の結果等からの学力分析

(1) 第1学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
生活と技術について理解が深まるよう、身近なことなどに関連させながら知識の定着を図ったり、技能が身につくよう繰り返し取り組めるようにしたりする。	学習した知識や技能を生活の中に生かせるよう、グループでの話し合いの場を設け、個々が自分の考えを構築し、発信できるようにする。 出来上がった作品をどのように使うと豊かな生活ができるか考える場面を設ける。	見通しをもちながら、計画的に作品作りなどができるようにしていく。

(2) 第2学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
基礎的・基本的な知識の定着が十分ではないので、適切な道具の使い方や周囲への配慮ができるよう、道具や材料の特性を理解しながら作業できるようにしていく。	学んだことを生かして自分の考えを表現することが苦手であるので、グループでの話し合いの場を設け、個々が自分の考えを構築し、発信できるようにする。	教科に対する関心は高いが、授業への取り組み方や姿勢で課題が見られるので、世の中の問題や課題と関連させ、自分事として捉えられるようにしていく。

(3) 第3学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
基礎的・基本的な知識の定着が十分ではないので、適切な道具の使い方や周囲への配慮がで	学んだことを生かして自分の考えを表現することが苦手であるので、グループでの話し合いの	教科に対する関心は高いが、授業への取り組み方や姿勢で課題が見られるので、世の中の問

きるよう、道具や材料の特性を理解しながら作業できるようにしていく。	場を設け、友達の意見を参考にしたり、比較したりしながら、自分の考えを再構築し、発信できるようにする。	題や課題と学習したことを関連できるように、自分事として捉えられるようにする。
-----------------------------------	----------------------------------------------------	----------------------------------------

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
生活や社会の中から問題を見出して課題を設定して解決する力を身につけさせる。	課題学習や体験学習を多くし、問題を魁夷結する力を身につけさせる。	授業規律の徹底を図り、より学びを深められる環境作りに努める。その中で生徒の自主的な活動を促す指導を行う。

（2）第2学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
機器や機材を効果的に活用する。とくに基礎的・基本的な内容を重視し、丁寧に重点事項を説明する。適切な難易度の課題を導入し、より高い技術の習得を目指す。	活発に表現する姿勢はさらに伸ばす指導を行う。自らの意見をまとめ、記述や発表などで表現する機会を多く取り入れる。	授業規律の徹底を図り、より学びを深められる環境作りに努める。その中で生徒の自主的な活動を促す指導を行う。

（3）第3学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
機器や教材を効果的に活用する。とくに基礎的・基本的な内容を重視し、丁寧に重点項目を説明する。安全への意識を重点的に指導し、道具の特性を理解しつつ安全に使用する力を養う。	活発に表現する姿勢はさらに伸ばす指導を行う。学んだことを活用する機会を積極的に作り、制約条件がある表現活動を多く取り入れる。	授業規律の徹底を図り、より学びを深められる環境作りに努める。その中で生徒の自主的な活動を促す指導を行う。